

2016年3月期 本決算概要

2016年5月12日

千代田化工建設株式会社

1. 業績概要

単位：億円

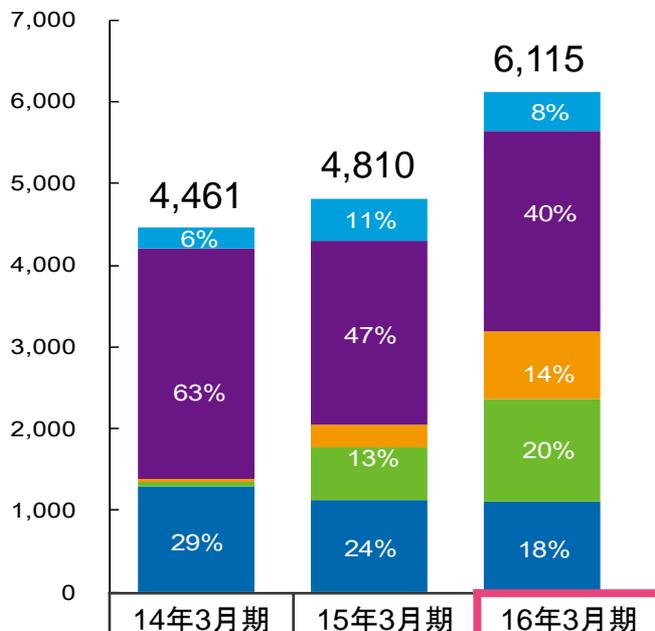
	15年3月期	16年3月期	前年 同期比	伸び率	修正 予想	達成率
受注高	7,468	4,036	△3,432	△46.0%	3,500	115.3%
完成工事高	4,810	6,115	1,306	27.1%	5,800	105.4%
営業利益	215	160	△55	△25.4%	110	145.6%
経常利益	223	162	△61	△27.2%	145	111.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	110	34	△77	△69.4%	25	135.0%
包括利益	151	△29	△180	-		
一株あたり配当	13.0 円	10.0 円			8 円	
為替レート	120 円/\$	113 円/\$			115 円/\$	

完成工事高は史上最高。イクシスLNG、ヤマル LNG、ニソン製油所、米国LNG等の進捗が進む。

利益項目は、本年3月の下方修正時の予想を上回るも、期首予想は下回り全ての項目で減益となった。

2. 完成工事高

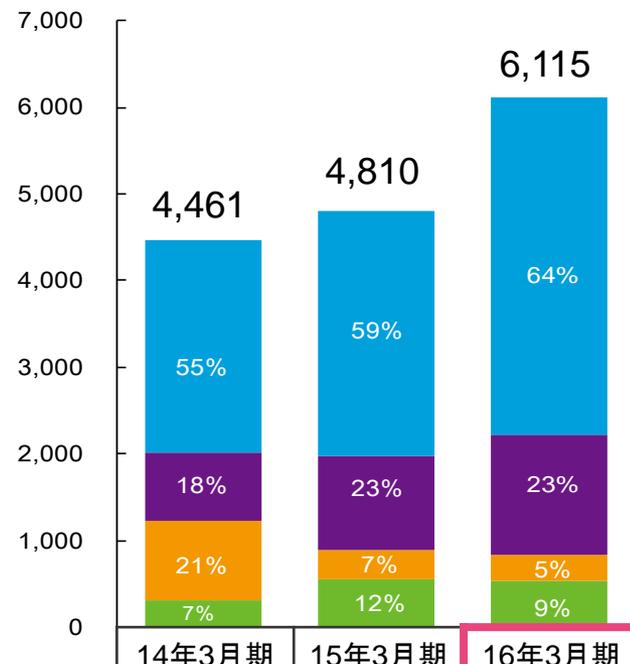
<地域別>



地域	14年3月期	15年3月期	16年3月期
■ 中近東・アフリカ	263	518	473
■ アジア・オセアニア	2,820	2,245	2,459
■ 北中南米	33	274	833
■ その他	58	640	1,237
海外 合計	3,174	3,676	5,001
■ 国内 合計	1,287	1,133	1,115

<分野別>

単位: 億円



分野	14年3月期	15年3月期	16年3月期
■ LNG・その他ガス	2,443	2,820	3,889
■ 石油・石油化学・金属	803	1,086	1,388
■ 医薬・生化学・一般化学	914	344	310
■ 環境・新エネ・インフラ・その他	303	560	528

地域別: アジア・オセアニアではイクシスLNG、ニソン製油所が進捗。ヤマルLNGの進捗によりその他が増加。

分野別: LNG分野の伸長が続く。豪州、ロシア、北米案件が順調に進捗。

3. 利益関連項目

単位: 億円

	15年3月期	16年3月期	前期比
完成工事総利益	457 9.5%	415 6.8%	△41 △2.7 pt
販売費及び一般管理費	△242	△255	△13
営業利益	215 4.5%	160 2.6%	△55 △1.9 pt
営業外損益	8	2	△6
経常利益	223 4.6%	162 2.6%	△61 △2.0 pt
特別損益・ 税金・非支配株主に帰属する当期純利益	△112	△128	△16
親会社株主に帰属する当期純利益	110 2.3%	34 0.6%	△77 △1.7 pt

完成工事総利益率: 海外製油所案件の採算の悪化、海外子会社の不振により大幅減。

販管費増: 貸倒引当金の計上による。

特別損益: 英国子会社の減損処理によりマイナス額が増額。

4. バランスシート

単位: 億円

	15年3月末	16年3月末	増減
【流動資産】	4,446	4,550	105
現金及び預金等 * 1	1,133	1,447	314
営業資産三勘定 * 2	1,135	1,043	△92
JV持分資産 * 3	1,829	1,794	△35
その他	349	266	△83
【固定資産】	713	732	19
有形固定資産	148	139	△9
無形固定資産	195	111	△84
投資等	370	482	112
【資産】	5,158	5,282	124

	15年3月末	16年3月末	増減
【流動負債】	2,943	3,111	168
短期借入金	10	3	△7
営業負債三勘定 * 4	2,615	2,857	242
工事損失引当金	40	32	△8
その他	278	219	△60
【固定負債】	131	150	19
長期借入金	100	100	△0
その他	31	50	19
【純資産】	2,084	2,021	△63
【負債・純資産】	5,158	5,282	124
【自己資本】	2,064	2,002	△62
【自己資本比率】	40.0%	37.9%	△2.1pt

【注】

- * 1 現金及び預金等＝現金預金＋有価証券(譲渡性預金等)
- * 2 営業資産三勘定＝受取手形・完成工事未収入金＋未成工事支出金
- * 3 JV持分資産：ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金
- * 4 営業負債三勘定＝支払手形・工事未払金＋未成工事受入金

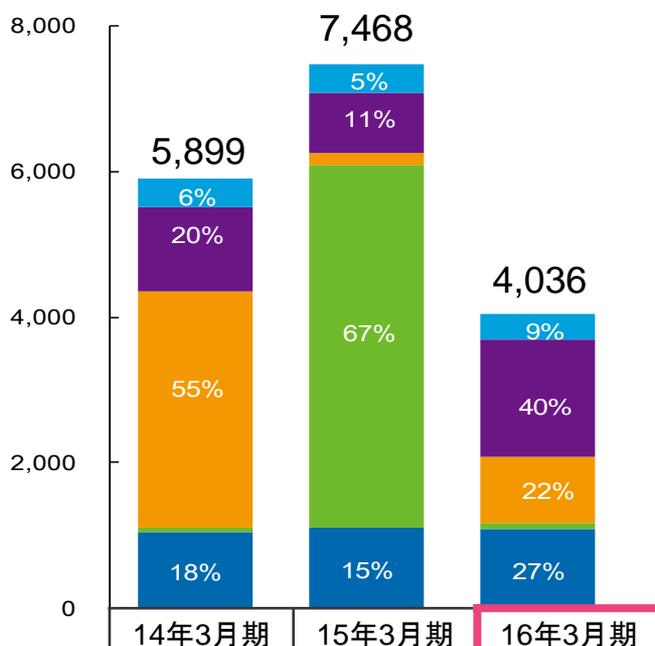
現金及び預金増：株式売却益等による。

投資等増：EMAS CHIYODA Subsea設立による。

純資産減：保有株式の評価額の減少等による。

5.受注高

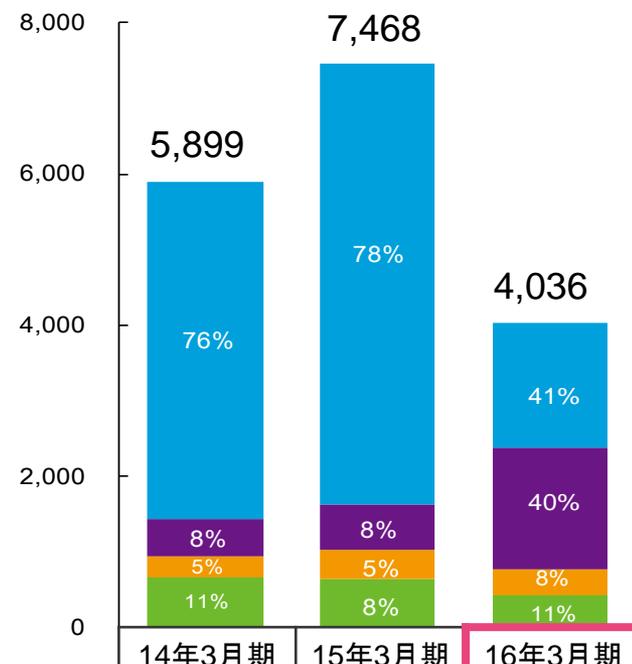
<地域別>



■ 中近東・アフリカ	379	386	351
■ アジア・オセアニア	1,171	824	1,613
■ 北中南米	3,244	167	902
■ その他	58	4,982	92
海外 合計	4,852	6,358	2,957
国内 合計	1,047	1,110	1,079

<分野別>

単位:億円

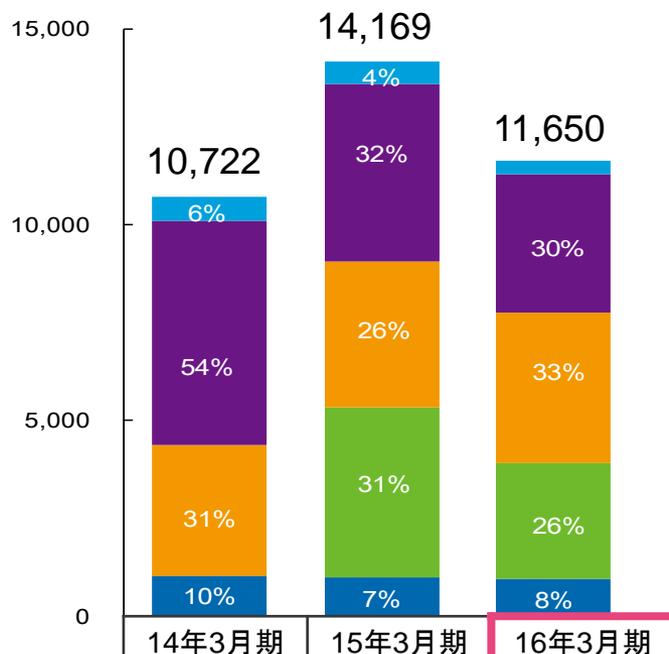


■ LNG・その他ガス	4,470	5,854	1,666
■ 石油・石油化学・金属	495	601	1,615
■ 医薬・生化学・一般化学	272	386	327
■ 環境・新エネ・インフラ・その他	662	626	428
海外 合計	4,852	6,358	2,957
国内 合計	1,047	1,110	1,079

LNG・その他ガス分野では、米国フリーポート第3トレイン、カタールヘリウム製造装置、遂行案件の追加工事を受注。
石油・石油化学・金属分野ではインドネシア銅製錬(EP)を受注。

6.受注残高

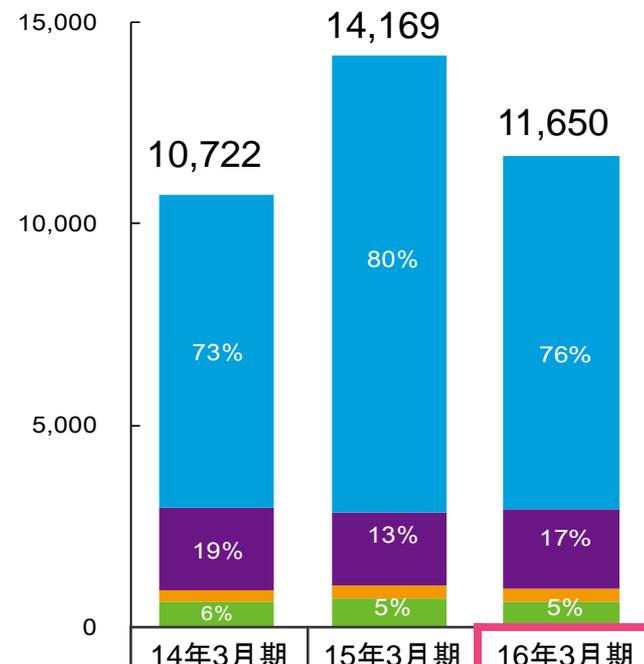
<地域別>



	14年3月期	15年3月期	16年3月期
■ 中近東・アフリカ	612	549	355
■ アジア・オセアニア	5,729	4,565	3,532
■ 北中南米	3,348	3,709	3,835
■ その他	1	4,343	2,967
海外 合計	9,690	13,167	10,689
国内 合計	1,032	1,002	961

<分野別>

単位:億円



	14年3月期	15年3月期	16年3月期
■ LNG・その他ガス	7,792	11,361	8,800
■ 石油・石油化学・金属	2,035	1,802	1,986
■ 医薬・生化学・一般化学	269	317	324
■ 環境・新エネ・インフラ・その他	626	689	539

完工高が史上最高だったため減少したが、LNGを軸に依然高レベルを維持。

地域的にはアジア・オセアニア、北中南米、その他の3地域に分散。

7. 2017年3月期 通期業績予想

単位：億円

	16年3月期 実績	17年3月期 予想	前期比	伸び率
受注高	4,036	4,700	664	16.5%
完成工事高	6,115	5,500	△615	△10.1%
営業利益	160	180	21	12.5%
経常利益	162	140	△22	△13.6%
親会社株主に帰属 する当期純利益	34	50	16	47.1%
配当	10 円	6 円	△4 円	
為替レート	113 円/\$	110 円/\$		

8. 2017年3月期 通期業績予想の内訳

単位: 億円

	16年3月期 実績	17年3月期 予想	前期比
受注高	4,036	4,700	664
海外	2,957	3,600	643
国内	1,079	1,100	21
完成工事高	6,115	5,500	△615
海外	5,001	4,300	△700
国内	1,115	1,200	85
完成工事総利益	415	420	5
販売費及び一般管理費	△255	△240	15
営業利益	160	180	20
営業外損益	2	△40	△42
経常利益	162	140	△22
特別損益・税金・ 非支配株主に帰属する当期純利益	△128	△90	38
親会社株主に帰属する当期純利益	34	50	16

9. 経営指標

	13年 3月期	14年 3月期	15年 3月期	16年 3月期	17年3月期 予想
完成工事総利益率(%)	10.7	9.3	9.5	6.8	7.6
完成工事高販管費率(%)	4.4	4.6	5.0	4.2	4.4
完成工事高営業利益率(%)	6.3	4.7	4.5	2.6	3.3
完成工事高経常利益率(%)	6.4	5.1	4.6	2.6	2.5
完成工事高当期純利益率(%)*	4.0	3.0	2.3	0.6	0.9
総資産経常利益率<ROA>(%)	6.4	5.0	4.5	3.1	
自己資本当期純利益率<ROE>(%)*	9.0	7.0	5.5	1.7	
一株当たり当期純利益<EPS>(円)*	62.06	51.91	42.58	13.03	
一株当たり純資産<BPS>(円)	727.24	758.31	796.89	772.89	
自己資本比率(%)	43.3	41.3	40.0	37.9	
流動比率(%)	166.3	156.3	151.0	146.3	
固定比率(%)	27.7	33.7	34.5	36.6	
負債純資産倍率<DER>(倍)	0.05	0.06	0.05	0.05	

* 親会社株主に帰属する当期純利益金額にて算出しております。

経営現況報告

2016年5月12日

千代田化工建設株式会社

代表取締役社長 澁谷 省吾

2017年3月期の重点ポイント

◆ 事業環境は引き続き厳しい

- 原油・ガス価格の低迷は続き、LNG案件の投資決定の遅れやO&U*分野への影響がみられる。
- 一方、当社の今後成長のために新規事業への注力は続けるが、当面は業績への負担が続く。
- 事業環境は引き続き厳しいが、新規事業を育てながらも、できる限り収益を確保する手立てをうつ。

◆ 2017年3月期の重点ポイント

- 豊富なLNG受注残の収益化
- 追加工事の獲得による、遂行案件の収益改善
- 不採算案件に手を出さないなど受注時採算性を精査
- 投資先グループ会社の事業運営の支援強化
- 次の時代に備えた収益源の確保・拡張

*O&U; Offshore & Upstream

2016年3月期 完成工事高に含まれる主な案件

◆ LNG・ガス分野

- オーストラリア・米国・ロシア LNGプラント建設工事
- LNG スタディ・基本設計業務
- カタール 千代田アルマナ社 長期EPCm*業務
- インドネシア洋上ガス設備 EPCI*業務
- 国内 LNG受入基地

◆ 石油・化学・金属分野

- ベトナム 製油所・石油化学コンプレックス建設工事
- カタール 製油所建設工事
- サウジアラビア スポンジチタン製造プラント建設業務
- 国内 製油所・化学プラント更新工事

◆ 新エネルギー・環境・インフラ・その他分野

- モンゴル、フィリピン 新空港建設工事
- 国内 ライフサイエンス関連 再生医療関連施設EPC業務、医薬品製造施設工事
- 国内 メガソーラー建設工事
- 設備診断、自然災害対策コンサル業務、O&M*
- オフショア・アップストリーム スタディ・コンサルティング業務

*EPCm; Engineering, Procurement and Construction management

*EPCI; Engineering, Procurement, Construction and Installation

*O&M; Operation & Maintenance

2016年3月期 受注高に含まれる主な案件

◆ LNG・ガス分野

- 米国 LNGプラント EPC案件 フリーポートLNG Train 3
- LNG スタディ・基本設計案件
- 既受注LNG案件 追加工事
- カタール 千代田アルマナ社 ヘリウム生産設備 EPC案件

◆ 石油・化学・金属分野

- インドネシア 銅精錬 EP案件
- 国内 製油所・化学プラント更新工事

◆ 新エネルギー・環境・インフラ・その他分野

- 国内 ライフサイエンス関連 再生医療関連施設EPC案件、医薬品製造施設工事
- 国内 メガソーラー建設工事(複数件)
- 設備診断(国土強靱化対策)、O&M
- バイオジェット・ディーゼル燃料製造実証プラントの建設 EPC案件

中計「時代を捉え、時代を拓く」 最終年度に向けて

◆ 現中期経営計画最終年度に向けて

- 各事業分野に関する現状と今後の重点施策 -

- コア事業であるLNG 分野を中心に、受注残高は引続き高い水準。手持ち案件を確実に遂行し、利益につなげる。
- 石油・化学・金属分野での佳境を迎える遂行案件を完遂。金属分野においては、大型案件の受注や遂行などの成果。
- オフショア・アップストリーム分野では、海中・海底(サブシー)関連のEPCI業務を遂行するEMAS CHIYODA Subsea社を設立。
- ライフサイエンス分野では、再生医療や遺伝子創薬などの成長が見込まれ、技術イノベーションの創出が必要となる開発製品の速やかな商業化への支援や製造設備の建設に貢献。

今後の受注見通し (1/2)

◆ 受注取組方針

- 2016年度は、リスクの高い案件は深追いせず、期首受注目標4,700億円を確実に達成しつつ、豊富な手持ち工事で着実に収益を上げる。
- 2017年度にかけてFID(最終投資判断)が下される案件を確実に確保していく。
- LNG以外の分野の伸長を図る。

◆ LNG・ガス分野

- LNG案件(米国・東南アジア・ロシア)/ FEED及びEPC案件
- 海外拠点案件(カタール・米国他)/ EPCm及びEPC案件
- LNGのEPCのコントラクターに選定された案件(モザンビーク / カナダ)

◆ 石油・化学・金属分野

- 東南アジアの金属案件 工事
- 海外拠点案件(シンガポール・インドネシア他)/ EPCm及びEPC
- 国内顧客の海外進出案件FEED及びEPC
- 国内 設備新設・更新案件/ FEED及びEPC

今後の受注見通し (2/2)

◆ 新エネルギー・環境・インフラ・その他分野

- 太陽光発電案件(国内外)
- 環境保全案件(国内・インド)
- 産業設備案件(国内)

◆ オフショア・アップストリーム分野

- スタディ・コンサルティング案件
- FEED・EPCI*案件(中東・東南アジア)

◆ 医薬ライフサイエンス

- ライフサイエンス案件(再生医療 / 原薬・ジェネリック・バイオ関連 設備)

* 設立・運営を開始したEMAS CHIYODA Subsea によりEPCI 業務の受注が見込まれるが、同社は持分法適用会社のため当社グループの受注高には含まれない。

【お問い合わせ先】

千代田化工建設株式会社

IR・広報・CSR セクション SL 塚本 朋之

〒220-8765 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいグランドセントラルタワー

TEL. 045-225-7734 FAX. 045-225-4962

URL <https://www.chiyoda-corp.com/contact/index.php>

この資料には、2016年5月12日現在の将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。